

# 令和5年度当初予算

## 「アフターコロナ 矢板パワーアップ予算」主要事業

本格的なアフターコロナ新時代の到来、人口増加やDX・GXなどの新たな分野を見据えた過去最大規模（約151億円）で編成された令和5年度当初予算を『アフターコロナ 矢板パワーアップ予算』と命名し、矢板の未来を切り開いていくため各種施策に取り組みます。ここでは、当予算の主要事業について、「矢板市総合計画」の「まちづくりの重点項目」にご紹介するほか、予算編成のポイントとして本市の基金状況をご説明します。

- 矢板市総合計画「まちづくりの重点項目」
- ①時代に即した産業を振興するまちづくり
  - ②災害に強いまちづくり
  - ③未来社会を切り拓くひとづくり
  - ④健幸なまちづくり
  - ⑤安心快適なまちづくり

### ①時代に即した産業を振興するまちづくり

#### デジタルバリアフリー推進事業 (220万円)



デジタルに関する知識・技能の向上を目的とした市民向け講座やお悩み相談室の開設、地域のデジタル相談役を担う「地域デジタルリーダー」の任命などに取り組みます。市民の誰もがデジタルの恩恵を享受できる「デジタルバリアフリー」に向けた環境整備を実現し、デジタル活用による地域発展につなげていきます。  
DX：Digital Transformation（デジタルトランスフォーメーション）

### ②災害に強いまちづくり

#### 新エネルギー利用促進事業 (1,460万円)



家庭用の太陽光発電設備・蓄電池・薪ストーブ・電気自動車などの購入補助や、災害時の代替庁舎や指定避難所における再生可能エネルギーや蓄電池、省エネ設備の導入に向けた基本設計を行います。  
自治体GXの推進により、公共施設および家庭での再生可能エネルギー導入と防災力強化を図ります。  
GX：Green Transformation（グリーントランスフォーメーション）

### ④健幸なまちづくり

#### こども医療費助成の現物給付拡大事業 (1億2,810万円)



4月1日受診分から、県内医療機関などの窓口で保険診療分の医療費を支払うことなく診療を受けることができる、「現物給付」の対象年齢を高校3年生相当※まで引き上げます。  
これにより、こどもに係る病気の早期発見と治療の促進および子育て家庭への経済的支援を図ります。  
※満18歳に達する日以降の最初の3月31日まで

### ⑤安心快適なまちづくり

#### 泉中学校施設転用・複合化事業 (3億8,600万円)



「矢板市公共施設等総合管理計画」に基づき、閉校した泉中学校に、泉公民館・泉保育所・泉はつらつ館・郷土資料館・きずな館の機能を集約させ、複合施設として転用し、令和6年4月の供用開始に向けて改修を行います。行政サービス水準の維持向上に努め、乳幼児から高齢者まで誰もが利用できる異世代間の交流拠点の整備を進めます。

### ③未来社会を切り拓くひとづくり

#### 移住支援事業 (70万円)



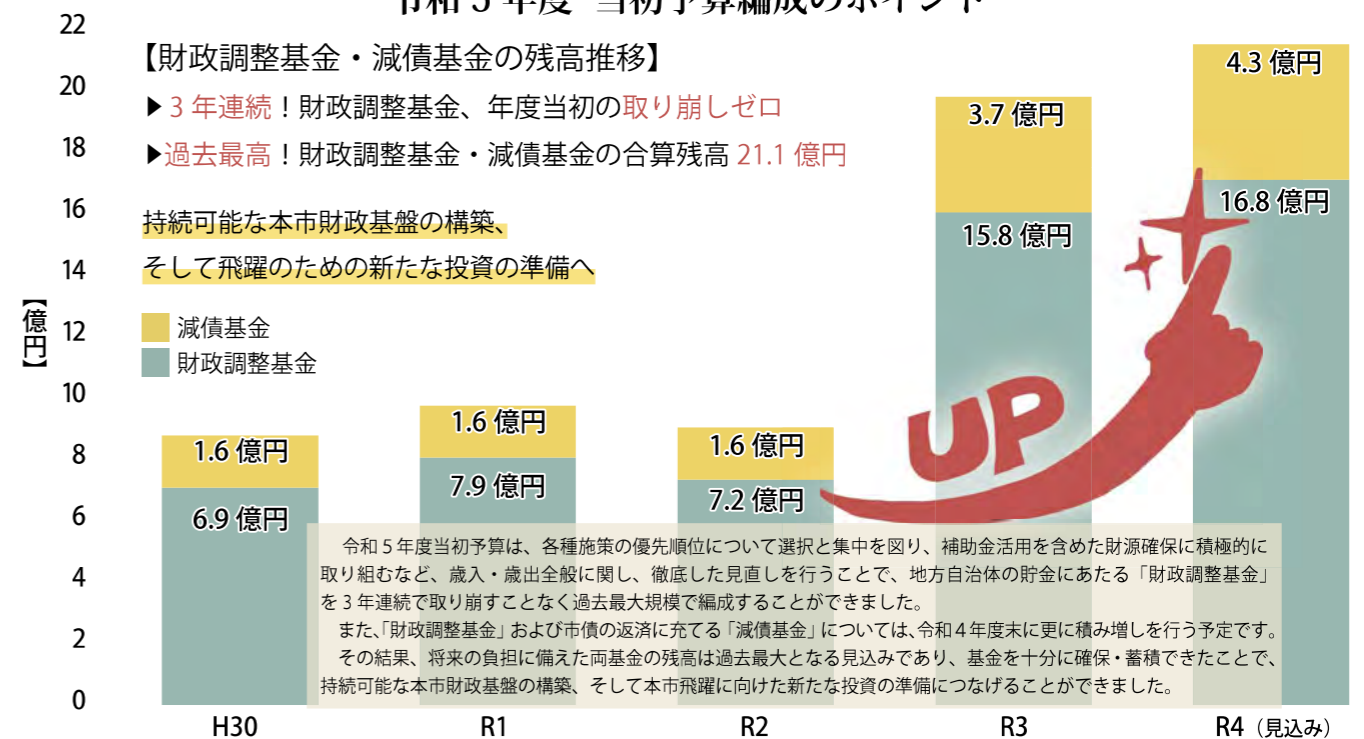
親元を離れ、市内学生寮などに入寮する学生などを対象に、新学期準備への支援を行います。また、本市への移住検討の契機としてお試し移住体験を行い、その費用の一部を助成します。  
新たな移住・定住促進対策に着手し、本市の人口増加を図ります。

#### 中学生放課後学習塾事業 (480万円)



高校受験を控えた矢板中学校・片岡中学校の3年生を対象に、放課後の時間を活用した無料の公営塾を6月から開講します。  
数学と英語の授業を週替わりで行うなど、学習環境の提供と習熟度に合わせた指導により、受講生の学力向上・進路実現のための支援を行います。

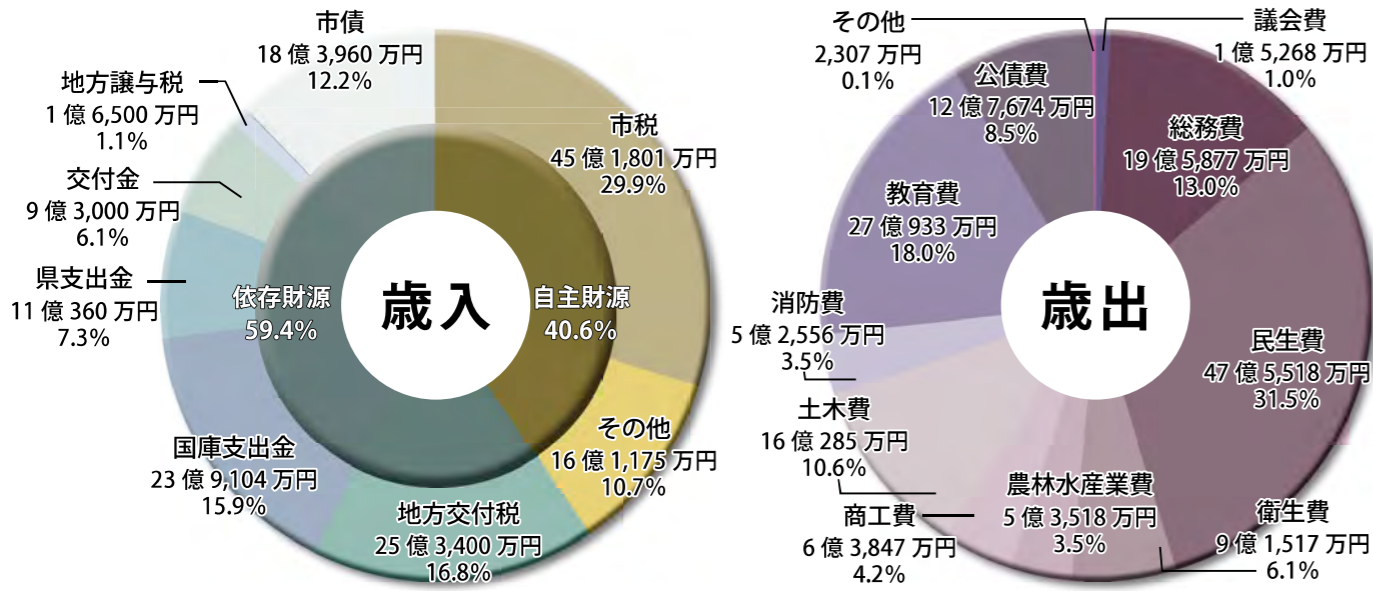
### 令和5年度 当初予算編成のポイント





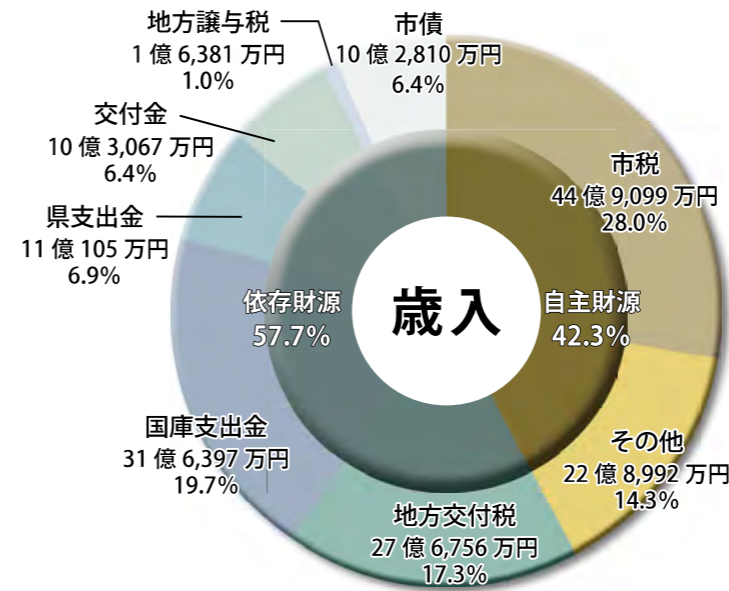
■令和5年度一般会計当初予算

150億9,300万円



■令和3年度一般会計決算

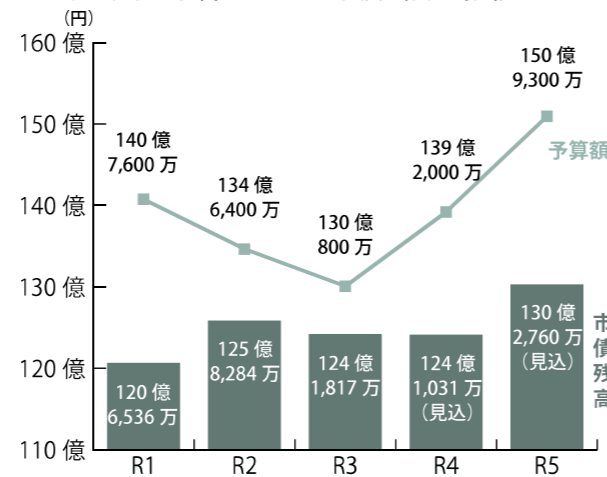
歳入 160億3,607万円



■会計別予算額

区分	令和5年度	増減額(昨年度比)	増減率
一般会計	150億9,300万円	▲11億7,300万円	8.4%
特別会計			
介護保険	30億5,060万円	▲3,620万円	▲1.2%
国民健康保険	35億1,000万円	▲1億2,660万円	▲3.5%
後期高齢者医療	4億7,290万円	3,720万円	8.5%
ハッピーハイランド矢板排水処理事業	1,110万円	▲40万円	▲3.5%
小計	70億4,460万円	▲1億2,600万円	▲1.8%
水道事業会計	12億5,300万円	▲400万円	▲0.3%
下水道事業会計	12億8,970万円	1億580万円	8.9%
合計	246億8,030万円	11億4,880万円	4.9%

■一般会計の予算額および市債残高の推移



■会計別決算額

区分	歳入	歳出
一般会計	160億3,607万円	149億7,894万円
特別会計		
介護保険	32億4,426万円	30億7,585万円
国民健康保険	36億9,593万円	35億8,826万円
後期高齢者医療	4億3,631万円	4億1,502万円
ハッピーハイランド矢板排水処理事業	1,184万円	751万円

■健全化判断比率と資金不足比率

健全化判断比率	項目	矢板市の比率	早期健全化基準	財政再生基準
	実質赤字比率	—	13.69%	20.00%
	連結実質赤字比率	—	18.69%	30.00%
	実質公債費比率	8.8%	25.0%	35.0%
	将来負担比率	29.1%	350.0%	—

「—」は赤字額がないことを示しています。

資金不足比率	会計名	矢板市の比率	経営健全化基準
	水道事業会計	—	20.0%
	下水道事業会計	—	20.0%

「—」は資金不足額がないことを示しています。

■歳入

法人市民税が原油・物価高騰による下振れ予想から減となる一方、個人市民税が給与所得持ち直しの傾向から、固定資産税が新築家屋の増加や太陽光発電施設の供用開始などから増となり、市税全体では7,619万円の増を見込んでいます。

繰入金は、財政調整基金繰入金を3年連続ゼロとした一方で、文化スポーツ複合施設建設工事などの大型建設事業実施に伴う公共施設整備基金の活用などにより1億2,731万円の増となっています。同様の理由により、国庫支出金は3,075万円、県支出金は4,808万円、市債は6億6,010万円の増となりました。

自主財源の額は前年度に比べ増加していますが、依存財源の増加がそれを上回ることから、歳入全体に占める割合は1.8ポイント減の40.6%となり、自主財源を確保することが難しい状況が続いています。

■歳出

増加した費目・増加額は、総務費が泉中学校施設転用・複合化事業や庁舎等整備基金積立金の増加などにより5億750万円、商工費が城の湯温泉センター改修工事などにより2億1,652万円、土木費が都市構造再編集中支援事業やわかば通り整備事業などの増加により3億988万円、教育費が文化スポーツ複合施設建設工事の継続などにより5億1,343万円となっており、これら大型建設事業の実施により予算総額が大きく増加しました。

一方、減少した費目・減少額は、民生費が児童手当支給事業や児童扶養手当支給事業などの減により6,240万円、衛生費が新型コロナウイルスワクチン接種事業などの減により8,352万円、消防費が同報系防災無線整備工事の完了により2億889万円、公債費が借入れを行った市債の元利償還金の減により1,024万円となっています。

■決算概要

ワクチン接種や「アフターコロナ矢板創生戦略」に基づく感染症対策を着実に実施するとともに、限られた財源の効率的な執行に努めました。また、普通交付税の追加交付、各種交付金の増加などもあり、歳入歳出の差である形式収支から翌年度繰越事業に充当する財源を差し引いた実質収支は10億732万円となり、令和4年度の歳入に編入されました。

■用語解説

実質赤字比率	一般会計等(矢板市の場合は、一般会計とハッピーハイランド矢板排水処理事業特別会計を合算したもの)を対象とした、実質赤字の標準財政規模に対する比率。一般会計等の赤字の大きさを把握するための指標。
連結実質赤字比率	矢板市のすべての会計を対象とした、実質赤字の標準財政規模に対する比率。矢板市全体の赤字の大きさを把握するための指標。
実質公債費比率	市が借入れたお金を返済するために、一般会計等から充てている金額の標準財政規模に対する比率。標準的な一般財源の額のうち、借金の返済に使われた金額の比率を把握するための指標。
将来負担比率	一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の額の標準財政規模に対する比率。一般会計等が抱えている借金等の額が、標準的な一般財源の額の何年分になるのかを把握するための指標。
資金不足比率	公営企業会計単位での資金不足額の事業規模に対する比率。公営企業として実施している事業単位で、赤字の大きさを把握するための指標。
標準財政規模	地方公共団体の標準的な状態で通常収入されると見込まれる、経常的一般財源の規模を示すもの。
一般財源	市税・地方交付税など、使途を特定されずに、市が自由に使うことができる財源。